

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 119号 ◆

-----2018-12-3◆◇

12月、師走になりました。

今年は例年になく暖かい冬になりそうで、札幌の初雪が128年ぶりの遅さという報道などもありました。地球温暖化が影響しているかどうかは定かではありませんが、何か異変を感じさせる年末になりそうです。

気候だけでなく、政治や経済も一つの時代が終わり、次の時代への転換が始まりかけているような一年だったかもしれません。学校では、昨年の中学校に続き、高等学校の新指導要領が発表され、新テストの準備も本格化するなど、師が年中走り続けなければならない様相は一段と強まりそうです。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

18年11月の活動やニュースを報告します。

【2】イベントカレンダー・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「教師が外部教材を使うとき」

【1】最新活動報告

■東京部会(No.105)を開催しました。

日時:2018年11月22日(木) 19時00分~21時30分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446 会議室

内容の概略:参加者 16名

(1)「春の経済教室」in 東京の内容と申し込み方法がHPにアップされた報告と現在までの取組み状況が報告されました。

(2)新テスト第二回試行問題(18年11月実施)の分析と検討が行われました。札幌での「冬の経済教室」の準備もかねて、鍋島史一氏(教育実践オフィスF代表)より今回の試行問題の分析の報告のあと、参加者の討議がおこなわれました。全体として、多彩な形式、工夫された設問ではあるけれど、読解力が試される問題が多く、時間内に読み切ることができるかどうかとの疑問が出されました。また、出題側からみてもこの水準の問題を継続的に出すことの難しさがあるの

ではないかとの指摘もされ、活発な意見交換が行われました。

(3)実践報告・授業案の紹介が5本あり、検討が行われました。

1)塙枝里子先生(都立府中東高校)の授業案が紹介されました。

タイトルは「職業の経済学～変化が激しい時代のキャリア形成～」で、新科目「公共」の職業選択に関連した授業案です。

2)杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)から、現在実施中の「働き方を考える」の授業実践が報告されました。

3)升野伸子先生(筑波大学附属中学)から、所属校での公開授業での授業実践の報告とその理論的背景をまとめた資料、期末考査の問題が配付されました。授業は、中学3年公民的分野での人権の部分(平等権)の授業で「働くことから男女の平等を考える」というものです。

4)岸香おり先生(ICU高校)から、軽減税率の授業(9月、10月の部会で検討されたもの)の実践報告、生徒の答案の紹介がありました。

5)東証の新教材が中沖栄氏(清水書院)から紹介されました。

夏の経済教室(東京中学)で教材の一部が紹介されたものの改良版で、「会社を知ろう」と「会社を応援しよう」の二つです。それぞれ20分ひとコマのDVDとワークシート、教師用指導書セットされたものが紹介されました。

(4) その他

落合隆先生(神奈川県立相模原清陵高校)から、12月22日(土)午後に予定されている「全国公民科・社会科教育研究会授業研究会研究集会」への参加要請がありました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo104report.pdf>

■大阪部会(No.61)を開催しました。

日時:2018年12月1日(土) 18時00分～20時00分

同志社大学 大阪サテライト(予定)

内容の概略はまとまり次第HPにアップします。

【 2 】イベントカレンダー

<イベント予定です。(開催順)>

■「先生のための経済教室（沖縄）」を開催します。（既報）

日時：2019年1月5日（土）

場所：沖縄県立博物館・美術館の美術館・講座室

■「冬の経済教室 in 札幌」を開催します。（既報）

日時：2019年1月26日（土）

場所：キャリアバンク職業訓練校教室

■「春の経済教室 in 東京」を開催します。（既報）

日時：3月16日（土）13時00分～17時00分

場所：慶應義塾大学南館4階 445教室

テーマ：「行動経済学を経済教育にいかにかすか」

内容の概略と参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2019%20keizaikyoushitu/20190316HaruKeizai%20final.pdf>

<定例部会のお知らせです。（開催順）>

■東京部会（No.106）を開催します。

日時：2018年12月25日（火）17時00分～19時00分

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 446会議室

■札幌部会（No.20）は冬の経済教室を兼ねて開催します。

日時：2019年1月26日（土）13時00分～17時00分

場所：キャリアバンク 職業訓練校教室

【 3 】授業のヒント

教師が「外部教材」を使うとき

外部団体が作成した教材を平常の授業で使うことも最近ではそれほど特別なことではなくなってきました。

先日も、大学の教科教育の講義での中間レポートに、外部教材を使った授業案が登場し、その理由を聞いたら、「金融甲子園」に高校の時に参加したことがあり、それがきっかけという学生の回答でした。

今回は、その種の外部教材（外部講師も含む）を使う場合のメリットや問題を考えてみたいと思います。

（1）外部教材あれこれ

外部教材にはどんなものがあるか。ここでは教材だけでなくひろく外部との連携

の授業まで視野に入れて話をすすめます。

経済学習に関して一番有名で普及しているのは「株式学習ゲーム」でしょう。東京証券取引所と日本証券業協会が共同で運営・提供しています。似たような形態では、「日経ストックリーグ」があります。こちらは野村証券と日本経済新聞の共同運営で、論文レポートが特徴です。コンテスト形式で教材提供をするものには、金融知力普及協会の「金融甲子園」があります。また、ジュニアアチーブメントは、MESE による「知の甲子園」などのコンテストや各種の教材提供を行っています。

そのほか、金融広報中央委員会、銀行協会、生保協会などの団体、みずほフィナンシャルグループ、VISA などの民間企業や日本 FP 協会などの非営利団体からの教材提供や出張授業もあります。また、金融庁、財務省、厚生労働省など各官庁の HP には子ども向け、学生向けのゲーム教材や学習教材がアップされています。出張授業では税の教室、財政の教室、社会保障教育、年金教育、消費者教育など目白押しです。

経済以外でも、法曹関係の法教育、総務省などによる主権者教育などもあり、学習指導要領の解説本には、〇〇教育に関する教材提供のなかで文部科学省の HP にあるもの一覧が掲載されています。

(2) 主体はどちらだ

中教審の答申のなかに「ひらかれた学校」が謳われ「外部資源の活用」という文言もでてくるなかで、この種の外部教材やコンテスト、外部講師を招いての授業などを導入する流れは今後やむことはないでしょう。

問題は、これに安易に寄りかかることかもしれません。

先の学生の授業案では、コンテストに参加する代表者をクラスで選び、さらに学校で選ぶという流れでの授業を構想していました。これでは「授業の内容がないよう」と親父ギャグで再考を指示しました。

この学生と同じような発想で、外部資源の活用を考えているケースは結構あるのではと、ちょっと心配になります。たしかに、これらは教材として、それなりに時間と手間をかけて作られていて良く出来ているものも多いし、うまく活用すれば時間稼ぎにもなるし、言うことはないのですが何か足りない。

それは、授業者の主体性ということになるのかもしれませんが。

企業の CSR でも、官庁の教材でも究極にはその提供団体の利害がからんでいるはず。だから、財務省の教材(2014 年メルマガ 12 月号のこの欄でオスメの教材として紹介しています)を使ったときに、生徒から「増税のための陰謀じゃないか」と

いう鋭い指摘が出るわけです。その時の、私の回答。「そういうねらいを発見するためにこれに挑戦してもらったんだ」。

(3)教材の構造を分析する

外部提供の教材や授業プランを活用するには、その教材の構造を分析することからはじまります。

知識を問うだけのような教材もあります。経済の仕組みを見つけ出すように誘導するすぐれた教材もあります。経済と数学的な思考を組み合わせたユニークな教材もあります。それぞれの教材が何をねらいとしているのか、それが通常の授業で使えるものか、それとも課外の活動の方がよいかなど教材の構造分析、内容分析をしたうえで、使うことが必要だということは言うまでもないことかもしれません。

また、コンテストや出張授業に関しても同じ事が必要になるでしょう。例えば、税の作文のように入賞のための必勝法があるようなものは本当に教育に役立っているのか、一度考えてもよいかかもしれません。

外部教材をうまく活用しながら、その先生の一本芯の通ったオリジナルな授業展開や工夫があることが理想ですが、それこそが授業におけるカリキュラム・マネジメントの醍醐味と言えるでしょう。

さて、却下した授業案、最終レポートでは学生さんがどんな分析やそれを使った工夫をしてくるか、楽しみです。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

新テストの試行「現代社会」では、問題文の長さが昨年試行より6,000字ほど長くなり18,000字になったとの報告がありました。よほどのスピードで文章が読めないと対応できない量です。新聞や本を読まなくなっている現代の若者が対応できるか心配になりますが、これって、スマホなどのタブレットでの読解を前提にしているのかもしれない。たしかにこれなら読めるかもしれませんが、それで本当に読んでいるのか、今回のテストの正答率が興味深いところです。

それにしても、いずれは紙ベースでの知的作業が消滅するのかどうか、そうになったら世の中がどうなるか、思考実験してみませんか。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇